



イラスト・すみのけいし

大阪には面白いローカル番組がたくさんあって、十五年以上も大阪のおばはんたちに強く支持されているお昼のワイドショー『ちちんぷいぷい』もそのひとつであります。火曜日には、インテリお笑い芸人ロザンが、大阪駅あたりで迷子になっている人をおかまにする「道案内しよッ!」というコーナーがあります。

この対談シリーズ担当の女性編集者Yさん、電車から降りてぼーっとしながら歩いていたら、ロザンに捕まわれてしまったそうです。「どこへ行くんですか?」と聞かれて、「大阪大学の仲野徹先生と金水敏敏先生の対談に」と、答えたらしい。

文章で書くとは問題ないのですが、今回の対談相手の金水先生の名字は、金水と書いて「きんすい」と読みます。が、寝ぼけ状態のYさん、「きんすい」って知ってたのに、「かぬみず」先生と言ってしまったのと反省しきり。

金水先生にはご内密に、とやうてたYさんでしたが、後日に放送されてしまいました。心の広い金水先生は、気にしてませんから、ということでしたが、ほんとはどうなんでしょう。ということ、今回のお相手は、国語学の(たぶん)大家、大阪大学大学院文

学研究科教授の金水敏敏先生です。
大阪弁Ⅱ関西弁?

仲野 今回は大阪の言葉について探っていこうというのがテーマであります。ひとくちに大阪弁といっても、谷崎潤一郎の『細雪』に出てくるような船場の言葉はきれいだといわれる一方で、岸和田(泉州)や南河内といった南のほうへ行くと汚くなるとされています。かと思えば、同じ河内でも、北河内みたいに京都に近くなるとアクセントも京都寄りになって、ちよっとお上品に聞こえたりする。同じ大阪の言葉でも、地域ごとかにかなりの特色がありますよね。

あと、関西弁という言い方もありますね。関西弁というくらいやから、広くは京都や神戸も含めた、いわゆる関西圏で使われている言葉というニュアンスがあると思うんですが、関西弁Ⅱ大阪弁みたいな感じで使われることもけっこうあります。

で、センセには、まず国語学者らしいパチンとしたお答えをお願いしたいんですけど、関西弁やら大阪弁ゆうのは、どういう定義で捉えたらいいんでしょう?

金水 いまおっしゃったように、京都や奈良と接している北摂や北河内と、和歌山方言との共通点が多い泉州では言葉がずいぶん違うように、大阪弁には地域ごとの特色がかなりあります。

ちなみに、いま「ごわす」と聞くと、西郷さんか相撲取りみたいに思われるかもしれませんが、これも由緒正しき大阪弁なんですよ。

仲野 そういえば、僕が子供のころは、近所で「ごわす」を使ってる人がまだいましたわ。

金水 でも、これは関西全般にいえることですが、昔に比べれば、こういう個性的な言葉は少なくなっている。京都の「どす」や「おす」も、いまではほとんど営業用の京都弁になっていて、使うのはお茶屋さんか舞妓、芸子、あとはお年寄りぐらいです。

仲野 お年寄りが使うということは、もともとは日常的な言葉だったということですか?

金水 明治から戦前生まれの人にとってはそうだったと思いますが、いまでも自然に使う人は絶滅危惧種になってますね。

神戸弁では、「知っている」を「知つとつ」といいます。「知つとつ」は「知っておる」が伸びた形で、